

クラス	QA308	担当教員	堀 美和子
テーマ	発達臨床からとらえる子ども理解 ―発達障害から子どもの発達を考える―		
著書・論文	<著書・論文> 「高機能広汎性発達障害児へのアプローチ」 『21世紀の心理臨床』 ナカニシヤ出版, 2003 「保育園や幼稚園での様子から気になった場合に保育園の中で気をつけること」 『可能性ある子どもたちの医学と心理学』 プレーン出版, 2002		
研究課題等	「自閉症児の“こころ”をはぐくむ―初期の関係性の発達への心理臨床的アプローチ―」 『いのちと向き合うこと・こころを感じること』 ナカニシヤ出版 2013 など <研究課題> 高機能広汎性発達障害児の発達援助に関する研究・子どもの心理療法課程の検討 など		
<b>ゼミナール概要</b>			
キーワード：発達障害・気になる子・発達臨床心理・関係性の理解			
<p><b>目的と内容：</b></p> <p>本ゼミでは、子どもの発達の偏りやそこからくる困難・支援、また子どもの周囲の家族や学校との関係などについて検討していきたいと考えています。平成16年に制定された発達障害者支援法も平成28年に改正され、発達障害についての理解や対応はここ10数年のうちに格段に広がり、支援によって安心して過ごすことができる子どもが増えたことも事実です。しかしその一方で、残念ながら適切な支援が受けられない子がまだまだ多くいたり、発達障害についての誤解や「発達障害」という枠組みでとらえることからくる問題が示されたりするなど、課題はいくつも残っています。そこで、ゼミの共通の学びのスタートとして「発達障害」をおき、そこから各自の問題意識を確認しながら展開していくことを予定しています。</p> <p>ゼミ活動は全体と個人の2種類の活動から構成されています。全体では、主に幼児期から学童期(児童期)の発達上の問題や発達障害に焦点を当て、その理解と支援について文献による学習や討論・実践・研究などを通して検討していきます。もちろん子どもの生涯発達の観点や家族とのかかわりから青年期や成人期について検討することもあります。ゼミ生の一人一人が子どもの発達についての実践的な知識をもとに、子どもたちが地域・家庭・学校で自分らしく生きていくために必要な支援を具体的に考えることができるようになることを目的とします。一方、個人では卒業論文執筆に向けて各自の興味を研究としてまとめていくことが最大の目的です。個人のテーマは必ずしもゼミのテーマと重なる必要はありませんが、できるだけゼミでそれぞれの興味を共有し意見交換をしながら問題意識を固めていきたいと考えています。</p>			
<p><b>授業計画：</b></p> <p>前期はいくつかの文献(メンバーの既得知識や興味によって文献を決めます)を用いて基礎的知識を深めながら、ゼミ全体で目標を立てた実践・学習を行います。後期には各自の興味関心について発表したり、トピックスを設けて学習しながらより理解を進めます。また、3年生は関連論文を積極的に読みながら自分自身の問題意識を固め4年次の卒業論文執筆に向けての準備を行わなければいけません。3年生中にテーマを定め、4年次に調査ができることを目指します。ゼミ活動の内容はメンバーの関心や意欲、自発的な動きによっていくらかでも変容していくものです。積極的に関わってください。</p>			
<b>担当教員からのメッセージ</b>			
<p>堀ゼミのメンバーとなるなら…(毎年同じことを書いています！)</p> <p><b>&lt;求める基本的態度&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から提案し、動き、考えることができること！</li> <li>・“ことば”その他で相手に自分を表現することを惜しまないこと！</li> <li>・ひとからのメッセージを真摯に受け止める努力をすること！</li> <li>・先生に“教えてもらう”のではなく自分で“まなぶ”姿勢を持っていること！</li> </ul> <p><b>&lt;知っていてほしいこと&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達を理解し支援を考えたいと思っているならば専修、学科や将来の進路希望を問いません。様々な視点から検討したいので、障害児に限らず多様な関心を持った学生さんを募集します。(ちなみに、堀は教員免許も持っていませんし、特別支援教育の専門家でもありません。心理学の立場から障害児だけでなく発達の・心理的な課題を持った子どもの支援・相談に取り組んでいます)</li> <li>・ゼミの時間だけではなく、それ以外の時間に行う活動が重要。文章を書くことや、文献を読むこともどんどん求めますのでそのつもりで。</li> </ul>			